

令和元年度 第2回看護師職能集会報告書

○日時：令和元年8月3日（土） 13：30～16：00

○場所：岡山県看護会館 4階マスカットホール

○参加者：79名（うち職能委員11名）

○プログラム：

13：30 開会挨拶 看護師職能委員会 委員長 安部 小夜子

13：35 講演 「地域包括ケアシステム推進のための看護管理者の役割」

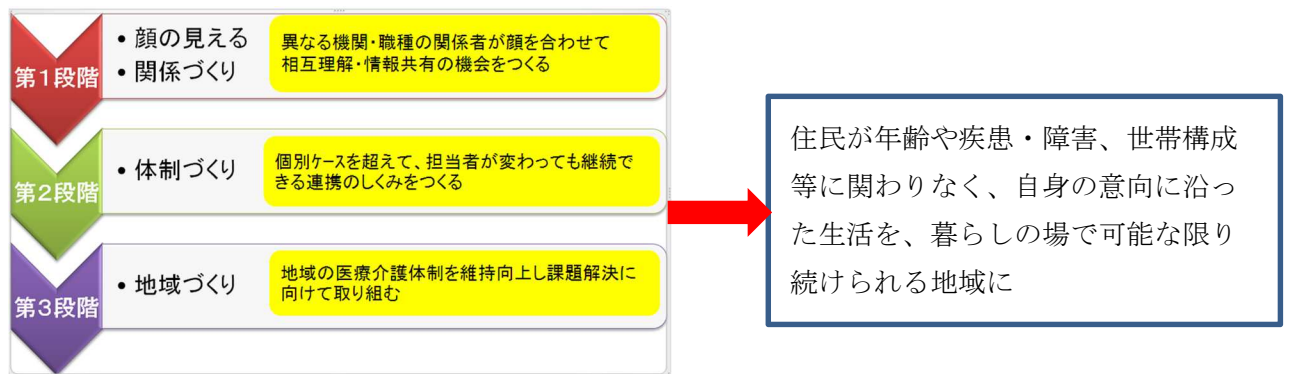
講師 公益社団法人日本看護協会 常務理事 鎌田 久美子先生

☆地域包括ケアシステムのコンセプトは地域が基盤の「ご当地システム」

－地域の住民を中心として、領域・組織を超えた多職種、他機関の連携調整が不可欠

－住み慣れた地域での在宅療養を最期まで支える仕組みが必要＝地域力を上げる

☆多職種連携・看看連携が目指す地域づくり



☆人々が健やかに生まれ育ち、また、疾患や障害があったとしても地域において生活を続けていくには、医療と生活の両方の視点をもつ看護職が重要な役割を果たす

15：00 質疑応答

15：10 意見交換

地域包括ケアシステムにおける看護管理者の連携推進に向けた情報収集・課題発見
(行政保健師との連携強化も視野に入れて)

15：50 発表

16：00 閉会挨拶 看護師職能委員 脇本美香

○まとめ

鎌田先生にはご自身の行政保健師としての役割について、その実践の実際を通し具体的に講演していただきました。講義を拝聴する中で、地域包括ケアシステムを推進するためには、個々の職種や医療機関における「顔の見える関係づくり」だけでは不十分であり、地域住民を中心とした連携体制のしくみづくり、さらに、職種や医療機関の垣根を越えて、地域の医療介護体制の維持向上を図るために様々な課題に手を取り合いながら解決していくことができる地域をつくるということが重要であるということが理解できました。

令和元年度 第2回看護師職能集会

「地域包括ケアシステムの推進のための看護管理者の役割」 アンケート結果

参加人数： 68 人 回収枚数： 68 人 回収率： 100.0%

日時： 令和元年8月3日(土) 13:30～16:00

場所： 岡山県看護会館4階 マスカットホール

講師： 鎌田 久美子 (公益社団法人日本看護協会)

1. 看護協会への入会について

会員	非会員	無回答
64	0	4

N=68

2. 支部名

岡山	倉敷	井笠	高梁	新見	真庭	津山・勝英	東備	無回答
34	12	2	3	3	2	6	6	0

N=68

3. 職種

看護師	准看護師	その他	無回答
67	0	0	1

N=68

4. 勤務施設

病院	医院・診療所	訪問看護 ステーション	介護保険施設 (特養・老健等)	居宅介護支援 事業所	保健所	看護教育施設	その他	無回答
61	2	3	1	0	0	1	0	0

N=68

5. 職位

スタッフ	副主任	主任	師長	副看護部長	看護部長	その他	無回答
0	2	5	27	3	28	3	0

N=68

6. 年齢

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答
0	3	12	43	10	0

N=68

7. 今年度の参加回数

1回目	2回目	3回目	4回目	5回以上	無回答
23	27	12	1	3	2

N=68

8. 参加動機(複数回答可)

上司の勧め	先輩・同僚の勧め	研修計画を見て	日程調整ができた	協会HPを見て	その他	無回答
15	1	39	18	0	3	1

N=77

9. 参加への期待(複数回答有)

新しい知識や情 報を得たい	日頃の看護を振 り返りたい	日頃の悩みを解 決したい	他施設との情報 交換がしたい	その他	無回答
52	5	4	16	2	0

N=79

10. 集会の理解度

1)地域包括ケアシステムに関する現状と最新の動向について

大変よく理解できた	理解できた	どちらとも言えない	理解できなかった	全く理解できなかった	無回答
10	51	6	0	0	1

N=68

2)地域包括ケア推進のための役割について

大変よく理解できた	理解できた	どちらとも言えない	理解できなかった	全く理解できなかった	無回答
11	48	6	1	0	2

N=68

11. 集会への意見

<地域包括ケアシステムの理解と活用>

- ・ 「地域包括ケアシステム」がなんとなくしか理解できていなかったが今回よくわかった
- ・ 精神保健上の問題がある方の退院支援または退院後の連携を地域包括ケア病棟では必要と考えている
- ・ HPの中の地域医療連携室同士でやっている

<保健師の役割・業務理解と連携>

- ・ 午前中の施設代表者会議で保健師の活動がよくわからないという意見があったが、午後の講義で理解できた。連携していく大切さがわかった
- ・ 保健師の活動が理解できた
- ・ 行政保健師の立場で次々と取り組みをされている問題解決の方法や考え方を学べた
- ・ 行政保健師と普段連携するという意識がなかった。地域の情報交換として定期的な会を開いていけたらいいと思う
- ・ 行政と連携をとっていくのは難しいと感じていたが、仕組みをつくるのが重要だと感じた
- ・ 行政保健師の活用と交流がしたいと思った
- ・ 福岡での取り組みは、地域包括ケア病棟では実践しているところだが、異なるところがあると思った
- ・ 行政保健師との連携の大切さを強く感じる。医療資源の少ない地域なので連携していくにはどうすべきか考えることができた
- ・ 行政の保健師活動について学ぶことができてよかった
- ・ 保健師や行政との関わりが非常に重要であるとよく理解できた。
- ・ 行政保健師について知識不足だったと感じた。

<他施設間交流・意見交換>

- ・ 他の病院の話が聞けてよかった
- ・ グループワークは、(問題を抱える)話したい人が悩みを解決できるきっかけとしてよい場であると感じる
- ・ 病院NSとの情報共有ができて、有意義な集会だった
- ・ グループワークがよかった

<企画への意見・要望>

- ・ 各職種それぞれの見解(発表)もあればわかりやすいと思った。それが難しいなら保健師だけでなく看護師(病院NS、訪看NS)、助産師それぞれの立場で…等
- ・ 「令和元年度日本看護協会重点政策・重点事業」についてもう少し詳しく聞きたかった。HPとして何をすべきなのか？方向性を聞きたかった
- ・ 保健師の役割は理解できた。岡山における取組を聞いてみたい

<全般>

- ・ 良かった。いろいろな意見が参考になった。
- ・ II領域の参加が少ないのはなぜなのかを検討してほしい。地域包括ケアシステムの中では重要な役割を果たす領域だと思う。

12. 今後の集会で取り上げてほしいテーマや講師

- ・ 岡山県内での現状や今後の取り組み(地域包括ケアシステム)(地域←→医療(HP、施設、訪看)間としての保健師の役割)。
- ・ どういった時に行政に頼るべきか教えてほしい。
- ・ 多職種連携について。
- ・ 次の診療報酬への取り組み。
- ・ 市町村が地域包括ケアシステム構築に医療者(病院)に何を求めているか。地域づくりをどう考えているか。
- ・ 副部長職の役割、働き方など。
- ・ クリニカルリーダーを詳しく。
- ・ 施設看護師対象の研修。
- ・ 介護職とうまく働くために必要なこと。
- ・ 保健師との連携ができる方向を希望。
- ・ 保健師の支援をしてみたい。普段あまりないことなので。

13. 現場で困っていることや、情報交換したいこと、岡山県看護協会・看護師職能に関する意見や要望

- 地域の保健師が行う地域の勉強会にもHPNSを呼んでほしい。顔の見える関係にもつながる。
- 地元岡山の保健師の役割、活動が知りたい。
- 人材不足。
- 多職種連携の難しさ。特に看取りの患者が在宅へ退院するとき、ケアマネ、訪看を入れ医療が介入してもらってもケアマネからは福祉用具の準備もなくどこまで病院が責任をもって介入するのかという問題が多い。
- 急性期の後方支援的病院で入院の受け入れをしているが、患者、家族が現状の体制を理解していないことが多く、相談時に長い時間をかけて理解してもらうことが多い。入院前相談では無料のため転院にならなければそれに関わった時間は無駄になる。地域連携システムの中に点数化できれば大変ありがたいと思う。
- 年齢の高い看護師が多く研修意欲がないため研修計画等しにくい。そのため若い看護師のモチベーションもさがる。どのように教育したら良いのか。
- 施設ナース、夜勤ナースの応募が少ないこと。